

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		わくわくエジソンあべの帝塚山教室				公表日	令和8年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		遊び場所と勉強室を分かれていること。 ドアは自動ロックをしています。 各エリアごとにスタッフが支援できている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		部屋の中にはドアがないので見やすいです。 各エリアごとにスタッフが支援できている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		パーティションを使っています。 エレベーターと階段がある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		隅々まで掃除して、定期的で大掃除してる。 おもちゃや机椅子などアルコール消毒している。 遊具など置ける広い空間があります。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		パーティションなどで一人になれる空間はあります。 学習室とプレールームが別室になっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		毎週会議を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	87.50%	12.50%	保護者さんとのコミュニケーションをはかっています。 教室内に掲示、HPにも記載。	保護者からアンケートをとる必要があると考える	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		こまめな報連相を心掛けています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		福祉会社の人達と交流を深めています。 年一回事業所評価を行う。 ハプニングが起こった時の対処法をみんなが見えるところに貼っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		外部から福祉大学の先生と勉強会をしています。 毎月いろんなテーマの研修がある。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		曜日ごとに内容が違って楽しく参加できるように工夫できていると思う。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		些細なことでも連絡を心がけている。 保護者とコミュニケーションを積極的に行っています。 一人一人に合わせて指導員が動いている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		利用者ファーストで考えられている。 毎日子供たちが帰った後に何があったか等を管理者に報告している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		子どもの特徴と課題をみんなで話し合う。 個別支援計画の共有を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	87.50%	12.50%	会議などで意見交換している。	指導員同士の共有不足。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		それぞれの頑張る目標を作ります。 個別支援計画やモニタリングを定期的に行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		運動、工作、SSTなど曜日によって内容をわけている。 内容が被らないように相談しあっている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		偏らないよういろんなスタッフが入れ替えで行っている。		

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		責任者が個別支援計画を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		グループチャットを活用し伝達漏れを防ぐ。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	87.50%	12.50%	1日の日報を記録して残している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		業務日誌をつけている。 会議で共有してます。 些細なことでも記録メモを残すことを心がけています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的に保護者と管理者で共有を行っている。 責任者が個別支援計画書をおこなっています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		福祉会社との交流を月に1回行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	87.50%	12.50%	障害福祉会社とのコミュニケーションを行っている。 提携している医療機関がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		学校や幼稚園などとコミュニケーションをとっている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		学校や保護者様と連絡先を交換している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	62.50%	37.50%	福祉大学の先生と月に1回の交流を設けている	機会があれば参加したいが参加する機会は今のところなさそう
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	75%	25%	定期的に社会福祉協議会に遊びに行っています。 お迎えにのときに交流をおこなっている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時に保護者とコミュニケーションをとってます。 連絡帳と帰りの送迎で交流している	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	75%	25%	親子イベントを行っている。 機会があれば企画したい。 契約時のときに説明をしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約時に説明している。 半年に一回モニタリングを行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		達成できないような無理な目標を設定しないこと。 保護者が子供に望んでいることを子供に支援に取り組んでいます。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		保護者様から子供たちの課題を聞きその課題に沿った支援を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		保護者様と面談を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	50%	50%	機会があれば企画したい。 親子イベントをしている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		相談窓口を契約時に説明している。 保護者様から受けた相談内容に沿った支援をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		Instagramやホームページにてできている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		鍵の施錠をしっかりと行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		必要に応じて絵カードなどを使用。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	75%	25%	社会福祉のスタッフとも交流する機会を設けている	今のところほとんどない
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		災害時の訓練は半年に一回子どもと一緒に 行っている。 マニュアル本を事務所に配置しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		プログラムで避難訓練の実習を行なっている。 BCP作成済み	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		アセスメントシートにて記載してもらっています。 発作が起きた場合の対応マニュアルがある。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		万が一発作が起きた時の対応方法を予め保護者に聞いております。 発作が起きた場合のマニュアルがある。 医師の指示で対策をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		プログラムで避難訓練などの練習を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		保護者とコミュニケーションとっている。 教室内に掲示しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		幸い件数は少ないが起きた場合は速やかに作成し会社全体で共有を行います	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		事務所内のマニュアル本を参考にしている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		保護者様と共有している。		